

編集後記

今回は整形外科の特集であるが、とびらに天児先生が「作業療法発展の歴史」をくださり、この特集号に重みを加えてくださった。

高齢化社会に向かっている我が国で老年者の骨折は、一般社会のみならず施設や病院内での事故も増える一方である。老人の寝たきりの原因としても重視すべき問題に正面から取り組んでいただいた。最近フィットネス、スポーツチームで前十字靱帯の断裂が我が国でも増えている。新鮮例であれば再建術が望ましいが、陳旧例では本人の生活様式を考えて対処することが述べられていて、さらに再建術が施行された後のリハビリテーションプログラムが詳しく提示されているので、全国各地で再建術を受ける患者のリハビリテーションを担当される方々にたいへん参考になる資料であろう。

美空ひばりの急病ですっかり有名になった股関節の無腐性壊死について質問を受ける PT・OT の方々も多いのではないかと考えられたので、その病態、分類、治療リハビリテーションなどをまとめた。いただいた。

さらに最近多いバイクの事故でよくみられる Brachial plexus の引き抜き損傷について、機能再建のポイントより御執

筆いただいた。

機械類はパーツの交換が可能であるが、人間に対しても最近いろいろなのを取り替えが可能になっている。その点で人工生体材料における(整形外科分野を主とした)進歩をおまといいただいた。

御多忙の中を快く御執筆くださった先生方に心から御礼を申し上げる次第である。

国会でははり灸マッサージ師、および柔道整復師に関して高卒3年の養成に統一すること、厚生大臣免許になることが可決され法律として成立した。PT・OT とまったく同じ養成課程になったわけで、一方これらの職種は開業権をもっている。将来我が国の医療体系を考えると、やはり汗を流して患者のために働く職種が残っていくであろう。

セラピーの語源はギリシャ語で“奉仕する”という意味である。生き残るためにはやはり口先だけでなく身体を使って汗を流し、棚ボタでもらった資格が棚ボタでなく世に奉仕できるものであることをぜひ証明していただきたいと願っている。PT・OT の我が国における確立は、これからが正念場である。(荻島 秀男)

PT・OT 教育に多大の貢献をされた砂原茂一先生(本誌編集顧問)が去る6月15日、急逝されました。心より哀悼の意を表します。(編集室)

理学療法と作業療法

(第22巻 第7号)

1988年7月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,350円(配送料60円)
〔年ぎめ予約購読料 15,120円〕
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内(03)817-5600

本誌編集室直通(03)817-5703

(担当:渡邊・細田)

販売部直通(03)817-5659・5660

広告室直通(03)817-5696

ファクシミリ(03)815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話(03)637-0005

広告申込所 (株)医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1988, Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意ください。

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院名誉院長

五 味 重 春

東京都立医療技術短大校長

津 山 直 一

国立身体障害者リハビリ
センター総長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大 喜 多 潤

兵庫県玉津福祉センター

寺 山 久 美 子

東京都立医療技術短大

富 岡 詔 子

信州大学医療技術短大

奈 良 勲

金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子

筑波大学

松 村 秩

東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

岩 崎 テ ル 子

宇 都 宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 み ち 子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子